



つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!

地域づくりの担い手、人材不足問題改善のために 活動参加促進に必要なことは?

地域活動において近年、人材の確保や後継者不足が課題となっています。内閣府の令和2年度特定非営利活動法人に関する実態調査の各法人が抱える課題について見ると、認証法人では「人材の確保や教育」が62.0%、「後継者の不足」が43.8%、「収入源の多様化」が42.9%となっています。認定・特例認定法人では、「人材の確保や教育」が66.7%、「収入源の多様化」が56.4%、「後継者の不足」が46.2%となり、順序は異なりますがこの3つが課題として上位にあがっている状況です。

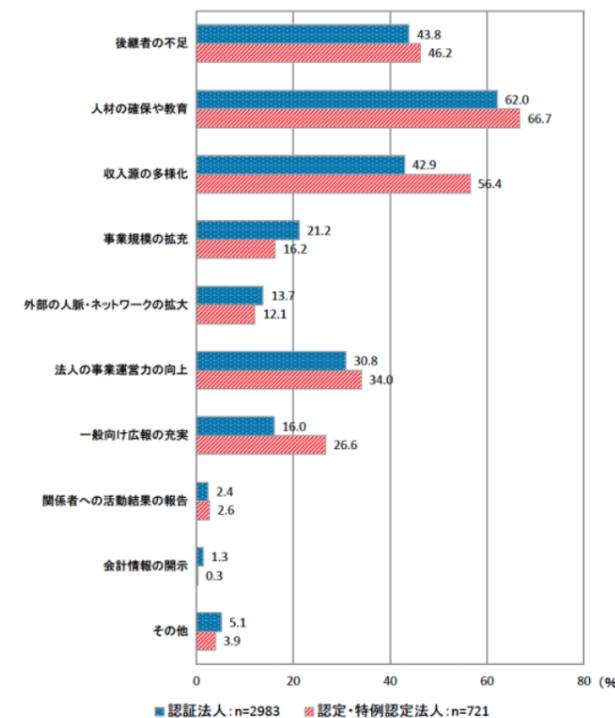
こうした課題がある中でNPOクラブが受託運営するちばし地域づくり大学校では、人材の発掘、育成のための学びの場を提供しています。大学校を運営する中で、地域にはボランティアや地域活動に参加したいという思いを持っている人がいることがわかってきました。受講生向け

のアンケートより、「自分の興味のある団体に自分のできるときに参加していきたい」「動めているため時間があまりないが、時間さえあればもっと多くの団体で実地体験してみたかった」「オンライン形式だったのでとても参加しやすかった」といった声があり、ボランティアをしたい人が減っているわけではないことや、忙しくてもオンラインであれば参加できる人はいること、40代、50代でボランティアに関わっている人もいることなどがわかりました。

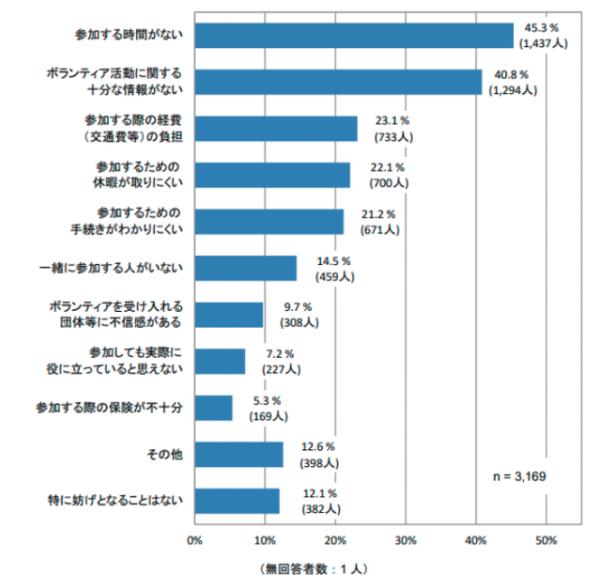
共働き世帯が増えていることもあり、時間を取ることが難しくボランティアに関われないが、地域活動に関心があり参加したいと思っている人はいます。特に子育て世代は育児をする中で地域に関わることも増え、困りごとを相談する相手が必要になることもあります。そういった人たちがより参加しやすいようなボランティア、地域活動の形を作っていく必要があります。どのように関わりやすい形を作るか、団体側の工夫も必要です。

中面では、こうした課題を乗り越え、団体運営を円滑化、活動参加者を増やした事例を紹介します。

【図1】抱える課題(3つまでの複数回答)



【図2】ボランティア活動への参加の妨げとなる要因(複数回答)



出典：内閣府「特定非営利活動法人に関する実態調査」令和2年度

出典：内閣府「市民の社会貢献に関する実態調査」令和4年度

第24回NPOクラブ定期総会記念講演会

参加者募集

「2030年代の千葉の暮らしを支える活動を支援するために
－支援者に求められる視野と機能－」

会員以外の一般の方のご参加も大歓迎です。ぜひお申込みください。

【講師】川北秀人さん (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所])

【日時】6月9日(日) 14:40～17:20

【会場】幕張公民館 2F 講習室 (千葉市花見川区幕張町 4-602)

JR 幕張駅 徒歩5分、京成幕張駅 徒歩2分

【定員】20名(先着順) 【参加費】無料

申込方法：右記フォームよりお申込みください。

またはNPOクラブ下記連絡先まで、氏名、ご所属、メールアドレス、電話番号を添えてお申込みください。

【主催】NPOクラブ

●同日同会場13:15～14:25に、第24回NPOクラブ定期総会を行います
2023年度事業報告と収支報告、2024年度事業計画・予算案について討議決定します。
賛同会員の方もぜひご出席ください。一般の方も傍聴いただけます。(要事前申し込み)

申込フォーム→



第24回 福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」

四街道市及び近隣の福祉施設の取組みや商品を紹介します。

地域の福祉施設や協賛団体でつくられた、お菓子・パン、新鮮野菜やクラフトなどが販売されます。お買い求めいただくことで、障がいのある人の就労、自立へとつながります。子ども向けワークショップもあります。お楽しみに!

【日時】5月18日(土) 10:00～14:00(小雨決行)

【会場】四街道市文化センター前広場及び展示ホール

【お願い】お買い物用のマイバッグ、ゴミ袋(ごみの各自持ち帰り用)をご持参ください。

【問合せ】四街道市みんなで地域づくりセンター内大きなテーブル実行委員会事務局
TEL:043-304-7065 Email:info@minnade.org

【主催】大きなテーブル実行委員会

【共催】公益財団法人四街道市地域振興財団

【後援】四街道市(申請中)



令和6年度ちばし地域づくり大学校受講生の募集は7月開始予定!

地域福祉活動やボランティア活動の担い手、地域のリーダーとして活躍できるよう講座や実地体験を通じて学ぶ方を募集します。

7月から募集開始予定。詳細は後日お知らせいたします。

【主催】千葉市 【企画・運営】NPOクラブ

大学校ホームページ→



◀編集・発行▶ 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: https://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npoclub1

Facebook「Facebook NPOクラブ」で検索 X「X NPOクラブ」で検索



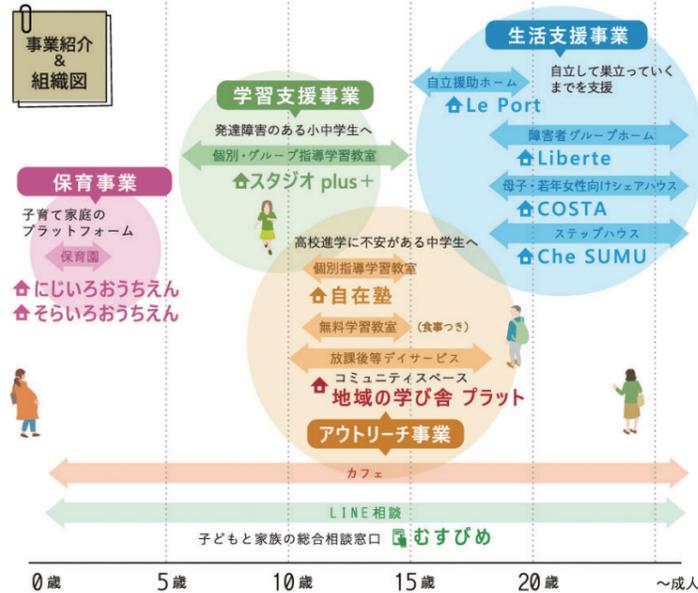
・運営会員 21名 賛同会員 100名 発行 900部 会員・県内市民活動支援センター・自治体等にお届けしています。



団体の活動を継続、拡充するために

多くのNPOで課題となっている担い手の育成・確保、団体の活動を継続、拡充するためのポイントは何か。県内の2つの活動団体にお聞きしました。

NPO法人 ダイバーシティ工房



Vision 目指す社会：
すべての家庭が安心して暮らせる社会

Mission 存在意義：
子どもと家族の成長に合わせた暮らしやすい環境を創る

Value 価値：
自ら違和感・暮らしづらさを見つけて行動します

一般的な塾は環境的に合わなかったり、経済的に利用が難しかったりする状況の場合は特に、一緒にご飯を食べ学習する場があるというのは、子どもたちにとって大きな支えです。「調理担当」のボランティアは近所の方たちが、学習支援のボランティアは学生たちが中心となっています。

「ふりかえり」や面談を大事に

プラット担当スタッフの宮坂さんは「プラットを閉じた後に毎回、ボランティアとスタッフとで、ふりかえりを行い、子どもたちの様子を共有しています。ダイバーシティ工房のスタッフは約150名で、プラット以外の事業においても、事業部ごとのマネージャーや現場リーダー、スタッフ間で、ミーティングや面談の場を定期的にとって運営しています。団体として、子どもを軸にした様々な事業に取り組んでいるので、一つの法人内で多様な業務経験ができて、社会的な知見も広がる」と話してくださいました。

法人設立から10年を経て組織づくりに注力しました

代表の不破さんは、2022年の年次報告書に下記のように記載しています。

“組織と自分を同一化することや「法人の代表だから」と役割にとらわれることをやめ、経営の責任を分散させ、この数年で育ててきた事業部ごとのマネージャー制度や、役職や在籍年数に関係なく対話や新しい取り組みが生まれる組織風土づくりに注力しました。”

1つの学習塾からスタートののち、地域で困りごとを抱える人や課題に出会うことで、プラットも含め事業数や働くスタッフ数が増えました。団体内の制度や仕組みを整えながら、創業時から組織の文化として大事にしている対話の時間や機会を持ち続けることで、スタッフ一人ひとりが仕事や生活の中で感じる「違和感」と向き合えるようにしています。

すべての家庭が安心して暮らせる社会へ

ダイバーシティ工房は、1976年に市川市で始めた「自在塾」(個別指導学習教室)の事業を前身に、2012年にNPO法人化し、子どもたちへの学習支援の専門性を軸にして地域の課題に対応する内容で事業を拡げてきました。

地域の学び舎 プラット

誰でもぶらっと立ち寄れる場所を目指して

子どもたちにとって間口の広い地域の居場所として、2017年にコミュニティスペース・地域の学び舎プラットをスタートしました。子ども食堂の機能も合わせた中学生対象の無料の学習教室に加え、放課後等デイサービスやコミュニティカフェも行っています。大広間には駄菓子のミニコーナーもあり、子どもたちに人気です。無料の学習教室は毎週月曜日と金曜日の18:00~20:10に開催、中学生を中心に7~15人の子どもたちの参加があります。

NPO法人ダイバーシティ工房
〒272-0034
千葉県市川市市川1-9-1AKIOビル4階
TEL 047-711-1136
HP <https://www.diversitykobo.org>



プラット担当スタッフの宮坂さんと広報担当の小林さん

NPO法人 四街道プレーパークどんぐりの森



和良比どんぐりの森の様子

NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森
〒284-0044 千葉県四街道市和良比690
TEL 090-6197-6735
E-mail playparkdongurinomori@gmail.com
HP <https://dongurinomori.net>

右から、前代表の古川さん、事務局の関口さん、プレイワーカーの中島さん、理事の皆さん

団体として大事にしていること

2001年、世田谷でプレーパークの活動をしていた矢郷恵子さんの講座をきっかけに団体を設立、日常につながる「遊び場づくり」活動を継続してきました。現在では、「和良比どんぐりの森」「中央公園」「さとくらし公園」「栗山小鳥の森」「鷹の台公園」と四街道市内5か所で活動を行っています。プレーパークの活動は全国各地で取り組まれています。「ケガと弁当は自分持ち」がモットーです。

四街道プレーパークどんぐりの森で大切にしていること

- ・子どもが太陽と土と風のもとでたっぷり遊び、豊かな「子ども時代」を過ごすこと
- ・子どもが「やってみよう」ことに挑戦し、安心して失敗できること
- ・子どもが地域社会で人とつながりながら育つこと

「和良比どんぐりの森」の活動

四街道駅から徒歩約15分、住宅街の先の森の中から子どもたちの元気な声が響きます。「和良比どんぐりの森」の当初の活動場所は都市公園でしたが4年間の活動期間を経て、隣接する里山の地主さんと「里山協定」を結び、現在に至っています。森の入口の案内ボードには、遊びに来た子どもたちや大人へのメッセージが書き込まれています。プレイワーカーが常駐して遊びのサポートをしますが、イベントはほとんど行わず、子どもたちの気づきや発見を大事にして運営しています。

運営業務を明確にし、分担する

四街道プレーパークどんぐりの森は2016年にNPO法人化、現在、理事6名と事務局1名が運営の中心を担っ

ています。団体設立以来、代表となって活動をけん引してきた古川さんが言いだし役となって、2023年度に団体運営についての大きな転換をしました。それまで、ほぼ古川さん一人で担っていた団体の運営業務を①代表 ②会計 ③人事(プレイワーカーのまとめ役)④事務局 ⑤現場統括の5つに分化し、①から③は理事が、④⑤はプレイワーカーが分担することにしました。代表や一部の役員に業務が集中し、負担感が大きくなってしまったり、事業内容への理解が共有できていないという状況に陥っているNPOが少なくありません。「自分一人でやるほうが速い」「説明するのが面倒」「遠慮して言い出せない」といったことで、抱え込んでしまっていたように思います、と古川さんは言います。業務内容や役割を明確化することで担い手も広がり、団体の新しい運営の形になったとのこと。

参加者からサポーターやプレイワーカーに

現在、プレイワーカーは10名、うち専門職として働いている人が2名、他の8名は時間制で働いています。活動日に遊びのサポートをするのが主な業務ですが、森の手入れをしたりプレーパーク以外の野外活動の企画運営も担当しています。自分の子どもと一緒に参加者として関わった後、プレイワーカーとして運営に関わっている人もいます。プレイワーカーとともに、活動の担い手になっているのがサポーターです。ボランティアで機関紙「どんぐりの森だより」の発行などにも関わっています。理事やプレイワーカーは月1回のミーティングやSNSを利用して意見交換、情報共有しており、サポーターも含めたメーリングリストも活用しています。運営の基本は、提供する側、される側を分けず、参加するみんなが「できること、やりたいこと」を実現することです。